

キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ベ と 病	苗 立 枯 病	菌 核 病	灰 色 か び 病	黒 斑 病	黒 すす 病	株 腐 病	ピ シ ウ ム 腐 敗 病	根 こ ぶ 病	黒 腐 病	軟 腐 病	黒 斑 細 菌 病	根 朽 病
ベジキーパー水	-		*a	-											◎			
マスタピース水	-		1	-											◎	◎	◎	
ドイツボルドーA水	M1		-	-											◎		◎	
Zボルドー水	M1		-	-		◎									◎	◎	◎	
タチガレン液	32		*h	3									◎					
スターナ水	31		7	3												◎	◎	
トップジンM水	1		3	2				◎				◎						◎
ペンレート水	1		7	6				◎										◎
エトフィンFL	22		1	3		◎												
アフエットFL	7		1	3				◎				◎						◎
カンタスDF	7		7	2				◎	◎			◎						
ケンジャFL	7		1	3				◎										
バレー D20FL	7		*j	1	☆		®	◎										◎
			1	3				◎				◎						◎
モンカットファイン粉 剤20D L	7		*g	2			®											
モンカットFL40	7		7	3								◎						
アミスター20FL	11		7	4				◎	◎	◎		◎						
ファンタジスタ顆水	11		3	3				◎	◎	◎								◎
メジャーFL	11		3	3		◎		◎				◎						
オラクル顆水	21		*c	2										◎				
			1	☆										◎				
オラクル粉	21		*b	2										◎				
ライメイFL	21		7	4		◎												
ランマンFL	21		3	4		◎							◎					
			14	1										◎				
			*f	1	☆									◎				
フロンサイドSC	29		*b	*e			®	◎						◎				
			*c	1			®	◎				◎						
フロンサイド粉	29		*b	*e			®	◎						◎				
セイビアーFL20	12		3	3				◎				◎						
スマレックス水	2		14	4				◎										
ロブラール水	2		7	4				◎				◎						
リゾレックス水	14		7	3								◎						
オンリーワンFL	3		1	3				◎										
ベジターボDF	19		14	3								◎						
ポリオキシンAL溶	19		*d	2														
			14	3				◎										

キャベツ

キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	べ と 病	苗 立 枯 病	菌 核 病	灰 色 か び 病	黒 斑 病	黒 すす 病	株 腐 病	ピ シ ウ ム 腐 敗 病	根 こ ぶ 病	黒 腐 病	軟 腐 病	黒 斑 細 菌 病	根 朽 病
フェスティバル水	40		1	3		◎												
レーバスFL	40		7	3		◎												
オリゼメート顆水	P2		*i	1	☆										◎		◎	
ネビジン粉	36		*b	2				◎										
		*c																
ネビリュウ粉粒	36		*b	2				◎							◎			
ピシロックFL	U17		1	3		◎							◎					
バリダシン液5	U18		7	5								◎			◎	◎		
キノンドーFL	M1		14	3											◎			
ジマンダイセン水	M3		30	3		◎												
ペンコゼブFL	M3		30	3		◎												
ダコソイル粉	M5		*b	1											◎			
ダコニール1000FL	M5		14	2		◎												◎
バルクートFL	M7		28	3				◎										
リドミルゴールドMZ 顆水	4・M3		30	3		◎												
フォリオゴールドFL	4・M5		14	2		◎							◎					
カセット水	31・24		7	3											◎	◎	◎	
ソタールWDG	31・14		7	3								◎				◎		
ナレート水	31・M1		14	3											◎	◎		
ゲッター水	1・10		7	2				◎										
ニマイパー水	1・10		7	3				◎										
ダコレート水	1・M5		14	2		◎		◎										◎
シグナムWDG	7・11		7	2		◎		◎	◎			◎						
ベジセイパーFL	7・M5		14	2		◎		◎				◎						
カスミンボルドー水	24・M1		7	4											◎	◎	◎	
カスミンバリダシン液	24・U18		7	4												◎		
ドーマイシン水	25・M1		14	2											◎			
カーニバル水	40・M5		14	2		◎												
プロボーズ顆水	40・M5		14	2		◎												
シトラーノFL	M1・M5		14	2		◎									◎			
フェスティバルC水	40・M1		1	3		◎									◎			
カンパネラ水																		
ベネセット水	40・M3		30	2		◎												

\*a:発病前～発病初期    \*b:播種又は定植前    \*c:定植前    \*d:子葉展開期以降  
 \*e:2回以内(苗床1回、本圃1回)    \*f:定植前日～当日    \*g:播種時～定植前  
 \*h:出芽時～育苗期    \*i:定植時    \*j:育苗期後半～定植当日

◎:リゾクトニア菌による病害

☆:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用法は、土耕栽培による苗には使用できない。

キ  
ヤ  
ベ  
ツ

キャベツ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア	カ	カ	コ	ア	シ	ヨ	ハ	ウ	ネ	オ	ハ	キ	コ	カ	そ
						ザ	ブ	ブ	オ	ロ	ト	ス	モ	ワ	キ	オ	イ	ス	コ	カ	タ
						ミ	ラ	ラ	ナ	イ	ロ	ト	ス	モ	ワ	キ	オ	イ	ス	コ	カ
除虫菊乳3	3A		7	5		◎				◎											
スピノエース顆水	5		3	3		◎			◎	◎	◎		マ				◎				
エスマルクDF	11A		*e	-		ネ											◎				
エコマスターBT	11A		*e	-		ネ											◎				
ジャックポット顆水	11A		*e	-							◎	◎									
チューレックス顆水	11A		*e	-							◎	◎									
フローバックDF	11A		*e	-		ネ											◎				
ボタニガードES乳	-		*p	-					◎												
オリオン水40	1A	劇	7	4		◎			◎	◎		マ									
デナボン5%ベイト粒	1A		14	3						◎	◎	◎		◎						コ	ダ
ミクロデナボン水85	1A	劇	21	3					◎	◎	◎	◎									
オルトラン水	1B		30	1		◎	◎		◎	◎	◎	◎	マ								
オルトラン粒	1B		*m *d	1		◎	◎		◎	◎	◎					◎					
カルホス微粒F	1B	劇	*b	1												◎					
カルホス粉	1B		*b	1												◎					
サイアノックス乳	1B		21	2		◎			◎	◎	◎	若	マ				成				
ジェイエース溶	1B		30	1		◎			◎	◎	◎	◎	マ								
ジェイエース粒	1B		*d	1		◎			◎	◎	◎	◎									
ダイアジノン水34	1B	劇	30	2		◎			◎	◎	◎						◎				ボ
ダイアジノン乳40	1B	劇	30	2		◎			◎	◎	◎						◎				
ダイアジノン粒5	1B		*b *d	2 1											◎	◎					ケ タ
ネマキック粒剤	1B		*r	1														◎			テ
マラソン乳	1B		1	5		◎	◎		◎	◎											
ラグビーMC粒	1B		*r	1																	グ
プリンス粒*	2B		*k *Q *c *i	1	△ ▼ ◇				◎	◎							◎	◎	◎		
アグロスリン水	3A	劇	7	5		◎	◎		◎	◎	◎	◎	マ				◎				
アディオン乳	3A		3 21	5 2		◎			◎	◎	◎	◎	マ								
ガードベイトA粒	3A		*t	5										◎							
サイハロン乳	3A	劇	7	3		◎			◎	◎	◎	◎									
テルスター水	3A		21	4		◎			◎	◎	◎	◎									
トレボン乳	3A		3	3		◎			◎	◎	◎										
トレボンMC	3A		3	3					◎	◎	◎						◎				
フォース粒	3A	劇	*d	1											◎						
マブリック水20	3A	劇	14	3		◎			◎	◎	◎	◎	マ								
アクタラ顆溶	4A		*a	1 3	☆	◎			◎												

キャベツ

キャベツ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使用 回数	使用 条件	ア	カ	カ	コ	ア	ヨ	ハ	ウ	ネ	オ	キ	コ	カ	そ	
						ザ	ブ	ブ	ナ	ロ	ス	キ	イ	ス	ガ	タ	シ	ネ	オ	カ
						ミ	ラ	ラ	オ	イ	ト	モ	ン	リ	タ	シ	ジ	ネ	他	
						ウ	ハ	ハ	ム	チ	モ	ヨ	ヨ	ム	バ	コ	ノ	シ	害	
						マ	バ	バ	シ	ガ	ト	ト	ト	シ	シ	メ	ハ	幼	虫	
						シ	チ	チ	ム	シ	ウ	ウ	ウ	ウ	イ	ム	虫	類	虫	
アクタラ粒5	4A		*i	1	◆ ★		○		○											
			*a				○		○	○						○				
			*Q						○							○				
			*d				○									○				
アドマイヤー1粒	4A		*d	1			○													
アドマイヤー顆水	4A	劇		7	2		○													
アドマイヤーFL	4A	劇		7	2		○													
アルバリン顆溶	4A		3	2			○													
スタークル顆溶			*f	1	☆		○		○	○						○				
アルバリン粒	4A		*d	1			○		○	○										
スタークル粒			*m				○													
ダントツ粒	4A		*a	1		ネ	○		○					○		○				
			*d		△	ネ	○		○					○		○				
			*Q		▽	ネ	○		○								○			
			*c			ネ	○		○											
ダントツ溶	4A		3	2		○	○		○	○										
モスピラン顆溶	4A	劇	7	5		○	○		○	○						○				
モスピラン粒	4A		*d	1			○		○	○										
			*h				○		○	○		○			○					
トランスフォームFL	4C		1	3		ネ	○													
ディアナSC	5		*a	1	☆	○													ハ	
			1	2		○			○	○	○	○	○	○	○	○				
アニキ乳	6		3	3					○	○	○	○	○	○	○	○				
アフーム乳	6		1	3					○	○	○	○	マ			○				
マイキラー	8	劇	14	3															○	
コルト顆水	9B		1	3		ネ	○													
コテツFL	13	劇	1	2					○	○	○	○	マ		○	○				
パダンSG溶	14	劇	14	4			○		○	○						○				
リーフガード顆水	14	劇	7	3		○	○		○	○						○			ナ	
アタブロン乳	15		7	4					○	○	○	○	マ		○					
カウンター乳	15		7	3					○	○	○	○								
カスケード乳	15		7	2		○			○	○	○	○	マ		○	○				
ノーモルト乳	15		7	2					○	○	○	○	マ		○					
ファルコンFL	18		7	2					○	○	○	○	マ		○	○				
マッチ乳	15		7	3					○	○	○					○				
マトリックFL	18		7	4							○					○				
ハチハチFL	21A	劇	14	2		○	○		○	○						○				
マイトクリーン水	21A		7	4					○											
トルネードエースDF	22A		7	2					○	○	○	○				○				
アクセルFL	22B		1	3					○	○	○	○	○	○	○	○	○			

キャベツ

キャベツ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア	カ	カ	コ	ア	シ	ヨ	ハ	ウ	ネ	オ	ハ	キ	コ	カ	そ
						ザ	ブ	ブ	ナ	ロ	ト	ス	ワ	キ	イ	ス	ガ	ネ	オ	カ	タ
						ミ	ラ	ラ	オ	イ	ト	モ	ン	ヨ	リ	タ	ダ	ジ	ガ	ネ	他
						ウ	ハ	ハ	ム	チ	モ	ジ	ヨ	ト	バ	バ	メ	ハ	ム	シ	害
						マ	シ	チ	シ	ガ	シ	ト	ウ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	虫
						シ	チ	チ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	虫
アクセルバイト粒	22B		7	3										◎	◎					◎	
モベントFL	23		7	3		◎	◎		◎	◎											
フェニックス顆水	28		1	3					◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎				
プリロソソ粒	28		*n	1	△	◎	◎		◎	◎							◎				
			*o	1		◎	◎		◎	◎							◎				
			*m	1					◎	◎				◎	◎		◎				
プレバソンFL 5	28		*n	1	▲				◎	◎			◎	◎		◎	◎				
			1	3	☆			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
プレバソン粒	28		*n	1	△				◎	◎							◎				
			*o	1					◎	◎							◎				
ベネビアOD	28		1	3		◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎				
ベリマークSC	28		*n	1	☆	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
ヨーバルFL	28		*n	1	☆	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
			1	3		◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
ウララDF	29		1	2		◎															
グレーシア乳	30		7	2		◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎				
プロフレアSC	30		1	3					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
ファインセーブFL	34	劇	3	2		◎			◎	◎											
ブレオFL	UN		7	2		ネ			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
キックオフ顆水	4A・28		*f	1	☆	◎	◎		◎	◎		◎	◎				◎				
			3	3					◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎				
ジュリボFL	4A・28		*s	1	▲	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
			*n	1	☆	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
			*g	1		◎	◎		◎	◎							◎				
			*d	1		◎	◎		◎	◎							◎				
			*i	1		◎	◎		◎	◎							◎				
			*Q	1					◎								◎				
アフームエクセラ顆水	6・15		7	3		ネ			◎	◎	◎	◎	◎	◎	マ		◎				
アクセルキングFL	21A・22B	劇	14	2		ネ	◎		◎	◎		◎	◎	◎		◎	◎				

キ  
ャ  
ベ  
ツ

## キャベツ(野菜類の登録農薬も使用できる)

\*:商品により使用時期・使用量・適用害虫等の登録内容が異なる。

★:苗地床に全面土壌混和する。

☆:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用方法は、土耕栽培による苗には使用できない。

▲:苗地床に灌注処理する。希釈濃度が☆の登録とは異なるので注意する。

△:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から均一に散布する。

◇:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの床土に均一に混和する。

▼:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの覆土に均一に混和する。

◆:床土に混和する。

▽:覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する。

株:株元灌注

\*a:育苗期後半 \*b:播種時又は定植時 \*c:地床育苗期 \*d:定植時

\*e:発生初期(但し収穫前日まで) \*f:定植前日～定植時 \*g:播種覆土後～育苗期後半

\*h:定植前日～定植当日 \*i:播種前

\*k:播種時～定植前 \*m:育苗期 \*n:育苗期後半～定植当日

\*o:育苗期後半～定植時 \*p:発生初期 \*q:播種時 \*r:定植前まで

\*s:播種時～育苗期後半 \*t:生育初期

グ:ネグサレセンチュウ ケ:ケラ コ:コオロギ

タ:タネバエ ダ:ダンゴムシ テ:ネグサレセンチュウ及びテンサイシストセンチュウ

ナ:ナメクジ類 ネ:ネギアザミウマ ハ:ハモグリバエ類

ボ:キボシマルトビムシ マ:タマナギンウワバ

若:若齢～中齢幼虫 成:成虫

## キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発消長		1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病 害	春まき			—	—	—	—	—					
	黒腐病				—	—	—	—					
	軟腐病						—	—					
	菌核病			—	—	—	—	—					
	夏まき										—	—	—
	菌核病										—	—	—
黒腐病									—	—	—	—	
軟腐病									—	—	—	—	
虫 害	コナガ			—	—	—	—	—				—	—
	アオムシ			—	—	—	—	—				—	—
	ヨトウムシ			—	—	—	—	—				—	—
	アブラムシ類			—	—	—	—	—				—	—
	オオタバコガ											—	—
												—	—

作 型 — ; 栽培期 — ; 収穫期  
 病害虫発消長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

キ  
ヤ  
ベ  
ツ

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	生育期	・発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 400～600倍 ダコニール1000 (FL) 1000倍 プロポーズ顆粒水和剤 1000倍 ペンコゼブフロアブル 500～600倍 リドミルゴールドMZ (顆水) ● 1000倍	●耐性菌を生じる恐れがあるので連用しない。
菌核病	生育期	1. 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 カンタスドライフロアブル 1500倍 スミレックス水和剤 2000～3000倍 トップジンM水和剤 1000～1500倍 ベンレート水和剤 2000倍 ロブラール水和剤 1000倍 2. 発病株は菌核を形成する前に抜きとり、処分する。	3～5月と10～11月頃に、気温が20℃前後で曇雨天が続くと発生しやすい。

## キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
根こぶ病	定植前	<ol style="list-style-type: none"> <li>常発地ではアブラナ科以外の作物との輪作を心がける。</li> <li>畑の排水を良好にするか、または高畦栽培とする。</li> <li>石灰施用により土壌酸度を矯正する。</li> <li>苗畑は無病地に設けるか土壌消毒し育苗(土壌消毒の項参照)、または消毒した用土でセル育苗を行う。</li> <li>定植直前に次の薬剤のいずれかを土壌混和する。                      オラクル粉剤                          全面処理                   30kg/10 a                          作条処理                   20kg/10 a                      ネビジン粉剤                          全面処理                   20~30kg/10 a                          作条処理                   20kg/10 a                      フロンサイド粉剤                          全面処理                   30~40kg/10 a                          作条処理                   15~20kg/10 a                 </li> <li>定植前日~当日に次の薬剤をセル苗等に灌注する。                      ランマンフロアブル△      500倍                 </li> </ol>	各種アブラナ科作物に発生し、土壌伝染する。ダイコンでは被害はほとんど見ない。 夏から秋にかけて高温多雨の年に多発し、秋冬どりでは定植の早い作型ほど被害が大きい。 前作にスイートコーンやジャガイモなどを栽培すると、被害の軽減効果がある。 薬剤などは表層10~15cmの土壌と十分に混和する。  △セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5~7ℓ)当り2ℓ
	生育期および収穫後	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病株は根、特にこぶを残さないように早めに処分する。また収穫後の残渣はていねいに処分し、畑にすきこまないようにする。</li> </ul>	
黒腐病	播種前	<ul style="list-style-type: none"> <li>高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。</li> </ul>	5月及び9~10月頃に気温が低く、多雨のとき発生しやすい。台風など強風雨により茎葉に傷がつくと多発しやすい。
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生を認めたら初期に次の薬剤のいずれかを散布する。                      カスミンボルドー(水)      1000倍                      カセット水和剤              1000倍                      キノンドーフロアブル                          800~1000倍                      ナレート水和剤                800倍                      Zボルドー(水)                500~1000倍                 </li> </ul>	
軟腐病	播種前	<ul style="list-style-type: none"> <li>低湿地での栽培をさげ、排水を良好にする。</li> </ul>	病原細菌は風雨や害虫によって生じた傷口などから侵入する。 夏~秋にかけて高温のとき発生しやすい。
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>台風や大雨の後、及び結球初期に、次の薬剤のいずれかを散布する。                      カスミンボルドー(水)      1000倍                      カセット水和剤              1000倍                      ナレート水和剤                800~1000倍                      Zボルドー(水)                500~1000倍                 </li> </ul>	



## キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
苗立枯病	播種前	1. 過密な播種を避け、苗床の過湿に注意する。 2. 土壤消毒を行う(土壤消毒の項参照)。	病原菌はリゾクトニア菌またはピシウム菌による。
萎黄病	播種前	・発生地 of 秋冬どり栽培では抵抗性品種(YR品種)を栽培する。	キャベツ、カリフラワー、ブロッコリー、コマツナ、カブ、ハボタンなどに発生する。秋どりのキャベツで特に被害が大きい。
	定植前	・本畑は土壤消毒を行う(土壤消毒の項参照)。	
株腐病	定植前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	病原菌はリゾクトニア菌であるが、本病は胞子により伝搬することがある。初夏どりの作型で、結球期に降雨が続くと多発しやすい。
	生育期	・次の薬剤のいずれかを予防的に散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 セイビアーフロアブル20 1000倍 モンカットフロアブル40 2000倍 リゾレックス水和剤 500~1000倍	
アブラムシ類	定植時	・次の薬剤のいずれかを施用する。 オルトラン粒剤 植穴 1~2g/株 モスピラン粒剤 植穴 1g/株 株元 1~2g/株	
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF 2000~3000倍 オルトラン水和剤 1000~2000倍 ダントツ水溶剤 2000~4000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000~4000倍	
アザミウマ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スピノエース顆粒水和剤 5000倍 ディアナSC 2500~5000倍 ハチハチフロアブル 1000倍	主要なアザミウマはネギアザミウマである。春作では5月下旬ごろから、夏作では定植初期から増加する。
アオムシ	定植時	・次の薬剤を植穴に処理する。 オルトラン粒剤 植穴 1~2g/株	老熟幼虫は薬剤がききにくいので、小さいうちに駆除する。
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタブロン乳剤 2000倍 アフーム乳剤 1000~2000倍 エスマルクDF* 1000~2000倍 オルトラン水和剤 1000~2000倍	

\*野菜類での登録

## キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
コナガ	定植時 (育苗期)	<p>1. 次の薬剤を植穴に処理する。                      オルトラン粒剤 植穴 1～2 g/株</p> <p>2. 次の薬剤のいずれかを処理する。                      ジュリボフロアブル                      セル苗等に灌注 #1、#3 200倍</p> <p>プレバゾンフロアブル5                      セル苗等に灌注 #1、#3 100倍</p> <p>苗地床に灌注 #2、#3 500倍</p> <p>プレバゾン粒剤                      株元散布 #4 1 g/株</p> <p>3. 広範な地域で設置可能であれば                      コナガコン◇を8～10m間隔に支柱を立て、たるまないように畝に平行に100～110m/10 a 又は20cmチューブを200本/10 a 設置する。                      コナガコンプラス◇の場合は100～120本/10 a のディスペンサーを設置する。</p>	<p>発生回数が多く、春から初冬まで発生加害する。                      幼苗期には芯葉を好んで食害し、被害が大きい。</p> <p>#1セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ)当り0.5ℓ。土耕の育苗床では使用できない。</p> <p>#2苗地床 1㎡当り2ℓ。</p> <p>#3育苗期後半～定植当日</p> <p>#4育苗期後半～定植時◇成虫の交尾阻害が目的。使用に当たっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。</p>
	生育期	<p>・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アフーム乳剤 1000～2000倍</p> <p>エスマルクDF* 1000～2000倍</p> <p>オルトラン水和剤 1000～2000倍</p> <p>カスケード乳剤 2000～4000倍</p> <p>コテツフロアブル 2000倍</p> <p>スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍</p> <p>ディアナSC 2500～5000倍</p> <p>トルネードエースDF 1000～2000倍</p> <p>パダンSG水溶剤 1500倍</p> <p>フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍</p> <p>プレオフロアブル 1000倍</p>	<p>抵抗性を獲得しやすいので薬剤を連用しない。</p> <p>*野菜類での登録</p>

**キャベツ**(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ヨトウムシ	生育期	<p>1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団で見つけ次第捕殺する。</p> <p>2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アファーム乳剤 1000～2000倍                      エスマルクDF* 1000倍                      カスケード乳剤 2000～4000倍                      コテツフロアブル 2000倍                      スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍                      ノーモルト乳剤 2000倍                      フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍                      プレオフロアブル 1000倍</p>	<p>5～6月と9～10月の2回発生する。</p> <p>若齢期は葉裏に集団で生息し、表皮を残し葉肉をかすり状に被害する。</p> <p>老熟幼虫は薬剤が効きにくく、しかも外葉から結球部全体に分散しているため防除効果も低くなる。</p> <p>*野菜類での登録</p>
ハスモンヨトウ	生育期	<p>・広範な地域で設置可能であればフェロディンSL*1を2～4個/ha・トラップ1台当たり1個を取付けて配置する。</p> <p>1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団で見つけ次第捕殺する。</p> <p>2. 幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>オルトラン水和剤 1000～1500倍                      ジエイエース水溶剤 1000～1500倍                      デルフィン顆粒水和剤*2 1000倍                      ノーモルト乳剤 2000倍                      フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍                      プレオフロアブル 1000倍                      マッチ乳剤 3000倍</p>	<p>*1アブラナ科野菜での登録。雄成虫の誘因(大量誘殺)が目的。使用に当たっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。</p> <p>春から初冬まで数回の発生をするが、多くなるのは8月下旬からである。</p> <p>*2野菜類での登録</p>
タマナギンウバ	生育期	<p>・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍                      ノーモルト乳剤 2000倍                      フェニックス顆粒水和剤# 2000～4000倍                      プレオフロアブル# 1000倍</p>	<p>アオムシと混発して同じような被害をもたらす。</p> <p>#ウワバ類での登録</p>
ネキリムシ類	定植時	<p>・次の薬剤のいずれかを施用する。</p> <p>ダイアジノン粒剤5 土壌表面散布 6kg/10a                      フォース粒剤 全面土壌混和 4kg/10a</p>	
	生育期	<p>・被害のあった株元の土を調べ、幼虫を捕殺する。</p>	

キャベツ

## キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
オオタバコガ	生育期	1. 広範な地域で設置可能であればコナガコン◇を設置する。 2. 若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF*                   1000倍 ファルコンフロアブル       2000倍 フェニックス顆粒水和剤       2000～4000倍 プレオフロアブル               1000倍	◇コナガコン設置法はコナガの項参照。 結球内部に食入するので外観から加害の有無が判断しづらい。特に9月頃の発生盛期に圃場での発生状況に注意する。 *野菜類での登録
ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイムシ)	育苗期	1. 施設育苗の場合、サイド等の開口部には防虫ネットを用いる。施設の出入り口は常に閉めておく。 土耕育苗は、防虫ネットによるトンネル栽培を行う。 2. 育苗期後半に次の薬剤のいずれかを株元処理する。 ダントツ粒剤                   0.5 g/株 プレバソン粒剤               1 g/株	幼苗期に加害されると芯止まりとなる。夏が高温乾燥のときに多発する傾向があり、8月上旬以降急増する。 *野菜類での登録
	幼苗期～生育初期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アクセルフロアブル           1000～2000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤   1000～1500倍 エスマルクDF                   1000倍 チューンアップ顆粒水和剤*     2000～3000倍 トルネードエースDF           2000倍 ハチハチフロアブル           1000倍 フェニックス顆粒水和剤       2000～4000倍 プレオフロアブル               1000倍 プレバソンフロアブル5       2000倍	
コオロギ	生育期	・次の薬剤を散布する。 デナボン5%ベイト(粒) 株元散布                   3～4kg/10 a	

キ  
ヤ  
ベ  
ツ